

動物に咬まれた

動物に咬まれるけがの多くがイヌ、ネコによるものです。小さい子どもでは身長が低いため頭や顔を、小学生以上では手足を咬まれることが多いです。男の子では陰部を咬まれた報告もあります。またイヌ、ネコ以外のペットや、野生動物に咬まれることもあります。動物に咬まれると傷口から感染を起こす危険があり注意が必要です。



応急処置のポイント

まず

できるだけ早く**大量の流水**で傷口をきれいに洗うことが重要です



傷口から出血がある場合

清潔なガーゼで圧迫して止血をします。



早めに医療機関を受診

傷口から感染する可能性が高いため医療機関を受診しましょう

破傷風ワクチンの追加が必要になることもあるため、過去の接種記録が分かるように**母子手帳**を持って行きましょう



直ちに救急車を呼ぶ

- 呼吸が苦しそう
- ぐったりする



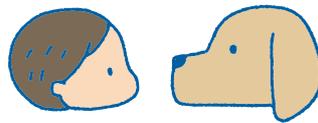
動物の種類によってはアナフィラキシーという重いアレルギー反応を起こす危険があります

家庭での事故(傷害)予防のポイント

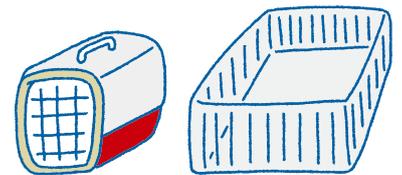
小さい子どもがいる家庭で犬を飼い始める際には穏やかな気質の犬種を選びましょう



短時間であっても絶対に小さい子どもと犬を一緒に放置しないようにしましょう



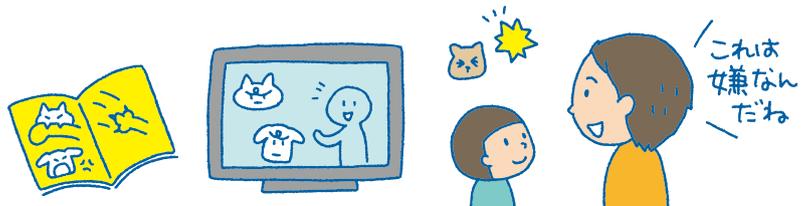
ペットをサークルやゲージに入れるなど、空間的な分離を図りましょう



去勢を検討しましょう



ペットを飼う際に動物の習性や嫌がる行動を子どもと一緒に映像やパンフレット、書籍などを使って確認しましょう



実際にあった事例

犬による外陰部外傷 Injury Alert(傷害速報)No.2

生後10カ月の乳児(男児)が夜間寝室の布団で就寝中、深夜に室内で飼育していた中型犬(シェパードとの雑種)が児の陰茎および精巣を噛みちぎった。児の命に別状はなかったが、輸血と大掛かりな手術を要した。

主治医からのひとこと